

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070100534		
法人名	有限会社 シライシップ		
事業所名	グループホーム シライシップ		
所在地	福岡県北九州市門司区柳町1丁目2番4号		
自己評価作成日	平成22年11月29日	評価結果確定日	平成23年2月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援のために、配膳の手伝い・食事の準備や片付け・植物の手入れ・掃除の手伝い等を行ってもらっている。
地元の商店街が散歩コースで、商店街の活気に元気づけられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家が改修された建物は、地域の中に違和感無く溶け込んでおり、周辺地域で最初に開設されたグループホームとして、10年目を迎えようとしている。近所には、昔ながらの商店街や市場、スーパー等が立ち並び、入居者とともに日常的に買い物に出かけ、散歩コースとしても活用されており、顔馴染みの関係となっている。また商店会代表の出席も得ている運営推進会議には、主治医や医療機関地域連携室職員、消防団長等の参加の機会もあり、多彩なメンバー構成にて意見交換が行われていることも特徴的である。家庭的な住環境の中で、「普通の暮らし」を営んでいくことを本人本位に検討し、個々の時間の流れや空間を大切にされた支援が行われており、定員6名という少人数での日々の暮らしは、入居者、職員の距離感も近く、さりげなく寄り添う支援が行われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との触れ合い、地域に根ざしたホーム」を基本理念に掲げ、スタッフ一同が常に目に届く場所へ掲示し、ミーティング時には唱和を行い、共有して実践に努めている	「気くばり、目くばり、心くばり」をモットーに、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた3項目の理念が作られている。ホーム内各所に掲示されており、日々実践に向けて取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買物等の際、あいさつを行うことにより、お互い顔なじみの関係となり、親交を深めさせていただいている	周辺には、昔ながらの商店街やスーパー、市場が立ち並び、入居者とともに日常的に買い物や散歩に出掛け、顔馴染みの関係となっている。地域行事への参加や、祭りの際には子ども神輿の巡行を受けたり、また消防訓練時には近隣住民の参加・協力を得ている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に積極的に参加し、家族、地域の方々に認知症を理解していただけるよう、見学等も随時できるよう、声掛けに努めている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、施設のサービス提供状況を報告し、利用者、家族、地域、連携病院の方からの忌憚のない意見をもらい、今後のサービス向上に努めている	運営推進会議は、自治会長・町内会長・商店会代表・主治医・市立病院医療連携室職員・消防団長等の多彩なメンバー構成により開催されており、地域との根付いた関係性を窺い知ることができる。意見交換や相互の情報提供の機会として、運営や支援の場面への反映に努めている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの社会福祉士の方と、運営推進会議等を通じて、随時助言や指導をいただいている	困難事例等への対応について、地域包括支援センター職員との連携を図っている。また運営推進会議には、市立病院医療連携室ソーシャルワーカーの参加も得ている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、研修会等で、身体拘束しないケアに関して、スタッフ一同に周知徹底し、徘徊のある利用者に対して、より重点な見守りに努め、原則居室、玄関は施錠しないようにしている	ホームの玄関には、身体拘束廃止に関する独自の方針が掲げられている。年間研修計画の中に位置づけながら、職員との共通認識を図り、意識を高めるよう取り組んでいる。基本的に、日中の施錠は行われていない。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待発見の際の通報方法や通報者保護については、全体ミーティングで話し合い、スタッフ一同周知徹底し、防止に努めている	

福岡県 グループホーム シライシツブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や、外部研修を通じて、制度の理解の把握に努めている	現在、日常生活自立支援事業を活用している方もおり、関係機関との連携による支援の過程において学ぶ場面も多い。年間研修計画の中に位置づけ、ミーティング等においても情報を共有している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約、解約にあたっては、代表者及び管理者が対応し、十分な理解と納得していただいた上で実施している		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度に行う、運営推進会議の場にて、利用者及び、家族、地域の方々により、積極的に意見交換を行い、経営者、管理者を中心に施設運営に役立てている	遠方に住む家族も多く、日々の様子を電話や写真等を用いて報告している。運営推進会議には、入居者、家族の参加の機会もあり、意見や要望を検討し、運営に反映させるよう努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施する、スタッフミーティングにて、スタッフ各々から様々な意見を聞くようにしている	職員体制も安定しており、毎月実施されているミーティングにおいて、活発な意見交換が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自らが、施設に頻繁に出向き、スタッフ各々に激励したり、親睦会等の機会を設けている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢等による排除はせず、既存職員に対してはスキルアップの為に、研修会等に参加できるようにしている	現在、職員体制は安定している状況にある。職員の募集、採用にあたっては、入居者の方々の意向や介護のニーズを考慮しているが、年齢や性別による排除は行っていない。夜勤を専門とするベテラン職員も配置されており、個々の家族環境にも柔軟な配慮を行うことが出来る。外部研修への参加機会の確保や、毎月のミーティングにおいて勉強会を実施し、個々のスキルアップを支援している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者及び管理者は、研修会等に参加し、ミーティングで他の職員へ報告し、周知徹底に努めている	代表者自らも外部研修に参加する機会を持ちながら、ホームでの伝達研修を行い、入居者の人権に関する共有認識を図り、意識を高める取り組みを行っている。	

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は、スタッフ一同に回覧し、希望者に対して積極的参加を促している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に見学に行ったりしながら、今後も継続的に機会を持ち、良い所は取り入れて行きたい		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入にあたり、本人に直接面談し、情報収集を行っている。要望や不安な事があれば、即座に受け止められるような、信頼関係に努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階は、家族等にとっての拠り所となり、誠心誠意になって相談に応じ、以後も同様の想いで関係づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族の心情を真摯に受け止められるよう心がけている。支援方法は、地域包括支援センターと連絡、連携を図りサービス支援に努めている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩でもあり、職員は多くのことを学び得ることがあり、各々の個性を尊重し、活かすことにより、お互いを支えあう関係を築いていけるよう努めている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設、地域行事への参加を家族にも促し、喜怒哀楽を共有できる時間を図っている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築きあげてきた人間関係を継続していただくよう、家族と一緒に支えていけるよう努めている	昔からの馴染みの商店街が隣接しており、日常的に活用している。遠方に住む家族との関係性を大切にし、密な連絡や、年賀状のやり取りを支援している。	

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々の日常の言動を通じて、利用者同士の関係を把握した上で、洗濯物たたみ等、個々にあった役割を分担するよう努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の方は、病院への移行が多く、入院療養中の間も、お見舞い等に伺いながら、関係保持に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者各々の想いや性格が異なることから、画一的な支援を行うのではなく、利用者の意向に沿ったケアの実現に努めている	入居者の方々の日々の様子が、わかりやすく、丁寧に記録されている。定員6名、また民家が改修された距離感の近い関係性や、安定している職員体制等を活かして、馴染みの関係性の中で、入居者一人ひとりの日々の思いや意向に寄り添うよう支援している。	定員9名での事業所移転も予定されており、今後の環境や関係性の変化による混乱も想定されます。職員間で共有されている情報を集約することや、新たな視点での気付きを得ていくためにも、アセスメント様式の工夫や充実に向けた取り組みに期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族より生活歴等の情報を得たことは、日誌等において職員間で共有し、把握できるように努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活状況については、一日の個別記録に身体的、精神的な面を記載し、現状把握に努めている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居段階にて、利用者及び家族の主訴の聞きとりを実施し、利用者本人、家族の要望に沿った、介護計画を作成するようにしている	家族や医師の意見を踏まえ、本人本位の検討を行いながら介護計画を作成しており、個別性ある内容が確認できる。3ヶ月毎のモニタリング・評価や、個々の状況に応じた見直しを行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を詳細に個別ノートに記録し、利用者の希望が組み込まれるよう、言動の変化等、気づきができるように努めている		

福岡県 グループホーム シライシップ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の入退院で、家族の付き添いが困難である場合には、職員で対応できるように臨機応変な支援を行っている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携を図れるよう努力し、イベントなどの際は参加の声掛けを行っている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人及び、家族の希望を考慮し、かかりつけ医で受診できるように支援している	本人・家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関より個々の状況に応じた往診があり、また運営推進会議には、市立病院医療連携室担当者の出席を得ている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に常に留意し、毎日バイタルチェックを行っている。異常のある時は主治医等に報告し、受診が必要な時は受診や往診を受けていただくようにしている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時は、頻繁に顔を出すなどして、利用者が安心して過ごせるようにしている。医療機関との情報交換を密に行う努力をしている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と密な情報交換を行い、事業所としてどこまで出来るかを、職員一同で話し合い、チームケアを行えるようにしている	入居契約時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。変化に応じて話し合いを重ね、医療機関等との連携を図りながら、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、ミーティング等で周知徹底を計っている。スタッフは急変時に備えシミュレーションを行っている		

福岡県 グループホーム シライシッブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を消防への協力で実施、地域の方にも参加していただいている	年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練が実施されている。訓練には、隣家を含む地域住民の参加、協力を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーには十分配慮し、個人情報が出漏れないよう、ミーティング時に周知徹底している	入居者一人ひとりの時間の流れや空間を大切に支援に努めている。また、個々の習慣や嗜好に、出来る限り沿った支援が行われている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人から自己決定ができるような、雰囲気づくりや声かけを実施して、利用者個々の能力を引き出す努力を怠らないよう、働きかけている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の計画は、強制的でなく、利用者本意で各々過ごしていただけるようにしている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や化粧については、各々の馴染みの物を利用できるよう、支援を行っている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的には、利用者が希望したメニューを取り入れ、年中行事に合わせて、季節感のあるメニューを取り入れている。利用者各々に合わせて、準備や片付けの役割分担を行っている	入居者とともに商店街や市場、スーパー等に毎日買い物に出掛けることから始まり、調理準備や後片付け等、個々に応じた力を発揮する場面がある。バランス等に配慮しながら、日常的に嗜好を取り入れている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体重増減により、食事を調整したり、排尿回数が増減に応じて、水分補給の徹底に努めている		

福岡県 グループホーム シライシツブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施を徹底している。清潔を保てない利用者には、介助をしながら行っている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている	生活リハビリとしての視点も確保された「普通の暮らし」の継続を支援する中で、ADLや活動性の向上につながった事例もある。排泄チェック表により個別のパターンの把握に努め、プライバシーへの配慮も含めた個別支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食材を取り入れ、ラジオ体操や適度な運動をしながら、身体を動かすことに努めている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか一人ひとりの希望に沿う事はできにくいですが、広い浴槽に安全のための手すり等を設置し、ゆったりと入浴を楽しんでいた	2日に1回の入浴を基本としているが、日曜日以外は毎日入浴準備を行い、その日の希望や状況に柔軟に対応している。無理強いとしないよう、また、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせた休息が出来るように支援している。昼夜逆転にならないよう努めている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりに対する服薬は、誤飲がないよう確実にしている。服薬の変更・追加の際は、情報の共有を必ず行っている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、能力を把握し、食事準備、洗濯物たたみ等、役割分担をしながら行っている。共に実施することにより、喜び、感謝の心が抱けるように努めている		

福岡県 グループホーム シライシツブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩の希望があれば、速やかに対応できるように努めている。地域のイベントの参加、お花見等、普段行けない場所にも出かけるよう、心がけている。家族との外出には、制限を設けず、本人と家族の希望に沿うように対応している	近隣商店街への買い物や、周辺の散歩に日常的に出かけており、地域との顔馴染みの関係がある。玄関先にはベンチが置かれ、ゆっくりとした時間を過ごしたり、プランターで花や野菜の生育を楽しむことが出来る。地域行事への参加や、門司区レトロ地区・めかり公園等への外出を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は小額持たれている。それ以外の方は、ホームで預かりそこから買物等、必要に応じて使えるよう支援している		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望のある時は、スタッフが見守りながら電話されたり、手紙(年賀状等)を書ける方はやり取りできるよう支援を行っている		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である、リビング、玄関等には、行事毎に飾りつけをしたり、置物で飾ったりして、季節感を見出すような工夫をしている	民家を改修して運営されており、共用空間は家庭的な雰囲気にあふれ、季節や行事にあわせた飾りつけもさりげなく工夫されている。リビングから多目的に使用される部屋へとつながり、ソファ等配置により、居心地の良い空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りや気の合う人同士で、各々自身の居心地の良い場所で、過ごされており、自分のペースで何でも行えるような空間づくりに努めている		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人、家族より生活暦等の情報を得たことは、日誌等において職員間で共有し、把握できるように努めている。家族と相談して、使い慣れた家具や想いの入れのある物等を持参して頂き、自宅と同じように心地よい空間づくりに努めている	それぞれ間取りが異なる居室には、使い慣れた家具やテレビ、個々の暮らしに必要な様々な品が持ち込まれており、生活感あふれる場所となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体は古いが、バリアフリーで、不自由なく生活出来る様にしている		